

学びをつなげる

9年間の学びと生活をつなげる環境づくり

生活をつなげる

学習環境面からみた課題とそれを克服するための方策

方策を実現する空間のイメージ

生活環境面からみた課題とそれを克服するための方策

学力

- 学力向上の底上げを図る必要がある
- 子どもたちが学びに向かう力をどうつけていくか
- 小学校段階でいかに落ちこぼれないか
- わかる授業
(やはり大事なものは授業の力)
- 同じ空間で異なる学力の子どもを教えていいのか

- ◆どこでつまづいたかがわかり、9年間で追いつけるようなカリキュラムを組めるのであれば、それが小中一貫教育のメリットではないか
- ◆年度ごとのフレキシブルな対応
- ◆授業の理解度を確認しながら進める
- ◆習熟度教育を取り入れる
→できる生徒には授業の前倒し
→できない部分は集中的に力を入れる
→理解が達していない子どもへのフォロー
- ◆教科担任制の導入時期

主体性

- 今の子どもたちは受け身自分で取り組む力がついていない
- 子どもたちが勉強に興味を持たせるきっかけになるのはやはり授業

- ◆学ぶことの意義を知る

教員指導

- 学習の準備に時間がかかる
- 先生は昔よりきめ細やかに対応している
- 小中一貫になっても教え方自体はそれほど変わらない

- ◆小中一貫コーディネーターによる研修
- ◆先生の温度差を縮める
- ◆個人カルテや連絡帳の活用
- ◆情報機器の活用

保護者との連携

- 家庭の協力なくしては学力向上は望めない
- スクールバス送迎により時間に追われ、時間的余裕がなくなっている

- ◆教員と保護者の意思疎通・コミュニケーション
- ◆生活が落ち着くと学力も上がる
- ◆放課後の時間の使い方を有効に

ふるさと愛

- 世界遺産に関する授業
- 木育・吉野材の良さを知る
- 子ども園で実施・園外に出て森と遊ぼう
- 手漉き和紙の卒業証書(原料の楮作りから)
- 柿の葉寿司実習

- ◆吉野のすばらしさ
- ◆地域の誇り、ふるさと愛、母校愛の醸成
- ◆卒業生が帰って来られる地域へ

- ◎広い廊下などを利用した習熟度学習スペース
- ◎小分けした空間
- ◎廊下の一角に学習スペース
- ◎学習内容により机や雰囲気を
変える
- ◎グループワークができるような円卓
- ◎子どもたちの心が落ち着く空間・畳スペースなど

- ◎子どもや保護者が先生に相談できる部屋
- ◎時間待ちに利用できる学習や交流スペース

- ◎木育コーナー いつでも好きな時に好きな物が作れる

- ◎児童生徒が自らの成長を実感できるなど、学校生活に変化をつける環境の工夫
- ◎小学生・中学生の共通スペースと別々のスペース
- ◎(スペースの問題はあるが)グラウンドを大と小に分ける
- ◎低学年の遊び場(中庭等)を設ける
- ◎昇降口・共通または分離
- ◎別々に行動する場所
- ◎理科室など特別教室は共有
- ◎ランチルームは同じ・・・1日に1度集団的に集える場所

- ◎地域の人が活躍できる場・チャンス創り

- ◆学年や年代ごとのゾーニング
- ◆共に活動できる空間

- ◆めりはり・儀式は必要
- ◆小中一貫でも小学校の卒業式・中学校の入学式は節目として必要
- ◆梶原学園の例
5年生から制服導入
児童会 生徒会はそれぞれ設置

- ◆小中一貫校が温室環境にならないよう
- ◆クラブ活動の充実
- ◆心と体を鍛える

- ◆閉ざされた学校ではなく、地域や近隣校へ開かれた関係づくりを行うことにより、多様な人間関係の形成
- ◆異年齢交流の促進
- ◆地域の人と関われる場づくり

- アクティビティの違い
- 休み時間の過ごし方による違い
- 入学したての子どもと受験前の子どもたちの過ごし方の違い
- 体格差 体力差 危険
- 一体感 同じ場所で過ごす意義

- 運動会は合同?
- 六年生の卒業式 中学一年生の入学式はどうするのか
- 制服はいつから?
- 児童会や生徒会は?

- 田舎の子は遅しくなくなった
- 健康な心身を持つ子どもであって欲しい

- 人間関係が固定されるのではないか
- 9年間環境が変わらないことへの不安

空間の使い方

行事儀式

遅い心と体

人間関係